

英語スピーキング「Can-do」アンケート調査 と自己評価方法の妥当性について

周育佳

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

1. はじめに

本稿は、東京外国語大学の学生が、英語を使った実際スピーキングの言語活動に関する「Can-do」アンケート実施結果を報告し、Can-do statements による自己評価方法の妥当性検証結果を考察したものである。本研究は、東京外国語大学 21 世紀 COE 「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」評価班（以下評価班）の、TUFS 言語能力の記述モデルの開発に伴う Can-do statements の開発プロジェクトの一環である。

1.1 Can-do statements の開発経緯

現在評価班は、TUFS 言語能力の記述モデルの開発にむけて、欧州議会の The Common European Framework of Reference for Language（以下 CEF）を応用する可能性について、基礎調査を進めている。欧州議会は、CEF の開発とともに、European Language Portfolio（以下 ELP）という教育ツールも開発している。ELP は学習者が取得した資格をはじめ、重要な言語的、異文化的体験を、分かりやすい形で記録でき、生涯にわたって使用できる言語学習に関する個人の記録である。ELP は三つの部分から成り立っており、その一部として、Language passport がある。Language passport とは、家庭・学校での使用言語、学習経験、また CEF レベルを参考にして、現在の外国語能力および Can-do statements を記したものである。Can-do statements とは英語を使って実際に何ができるかを端的に表したものである。簡単な例として「英語で 3 分間のスピーチができるかどうか」ということを記したものである。Can-do statements の実施は、学習者の学習動機づけを維持し、生涯学習を促進できると考えられている（Council of European, 2001）。

本学独自の言語能力の記述モデルの開発に伴い、将来的に、ELP の Language passport のような、外国語学習履歴およびその能力の個人記録、さらにそこに記される Can-do statements の開発も必要になると、和田（2004）は指摘している。開発にあたり、本学のような外国語学習教室環境と似たコンテキストで作られた、(株)ベネッセコーポレーションが開発している「GTEC 英語コミュニケーションテスト（以下 GTEC）」の Can-do アンケートが、多々参考になると推薦されている（和田 2004）。

1.2 Can-do statements による自己評価方法の妥当性

Can-do statements による自己評価は、学習者に具体的な言語機能また言語活動を遂行できるかどうかを答えてもらうことで実施される (Oscarson, 1997)。Can-do statements による評価は、自己報告、自己測定、学習者同士評価、日記、言語スキルに関する評価などと同様に、自己評価の一種である。

「Can-do」アンケートを使用し、学習者が自分の能力や言語活動について自己評価する場合、避けて通れない問題がある。それは、「Can-do」アンケートによる自己評価の妥当性、すなわち学習者が Can-do statements を使って、自分の言語活動について正確に評価できるかという問題である。自己評価の正確さはさまざまな要因の影響を受けると考えられる。例えば、文化の要素を考えると、欧米人が過大評価しがちで、日本人が過小評価しがちである (Heine, Kitayama, & Lehman, 2001)。また初心者が自分のレベルを高く評価する傾向がある (Heillenman, 1990)。さらに、言語活動に不安を感じる学生が自分の能力を過小評価する傾向にある (MacIntyre, Noels, & Clement, 1997)。言語活動の経験があるかどうかによって評価の正確さも変わってくる (Ross, 1998)。

今まで、第二言語評価分野においては、自己評価の妥当性検証研究は主に言語スキルに関する評価を中心に、自己評価と客観的なテスト結果の間の相関、つまり併存的妥当性を検討してきたが、一致した結果が得られていない。Heillenman (1990) はコース成績と大学生によるフランス語の文法、語彙、正確さ、流暢さとの間に、0.33 の相関を得た。Clark (1981) はスピーキング、リーディング、リスニングとライティングの能力に関する自己評価と FSI (Foreign Service Interview) スコア、またリーディングとリスニングのスコアを比較して、それぞれ 0.60 程度の相関を得た。LeBlanc and Painchaud (1985) によると 4 技能とテストスコアの間の相関は、それぞれ 0.80 程度の相関であった。Ross (1998) は、メタ分析を使って、先行研究の 23 個の相関を分析した結果、平均 0.61 の相関が認められた。

一方、Can-do statements による自己評価の妥当性に関する実証研究は少ない。Ito, Kawaguchi & Ota (2005) は日本人を対象として TOEIC スコアと英語を使って職務遂行の Can-do statements による自己評価結果の関係を調べた。TOEIC のトータルスコアと自己評価のトータルスコアには、高い相関 (0.71) が得られた。スキル別の Can-do statements も、それぞれ TOEIC トータルスコア、TOEIC リスニングスコア及びリーディングスコアとの相関は 0.7 程度であった。彼らは調査で使われた Can-do statements がビジネスの場における第二言語能力を測定する道具として、信頼性のあるものと結論付けた。しかし、彼らはスピーキングに関する Can-do statements の妥当性を検証するのに、スピーキング・テストを使用しなかったため、スピーキング言語活動に関する「Can-do」自己評価と実際のテスト結果との比較はできなかった。

スピーキング・テストデータを取ることは困難な為か、スピーキング活動に関する自己評価結果とスピーキング・テスト結果との比較によって、自己評価方法の妥当性を検証する研究例が少ない。しかし、スピーキング言語活動は、学習者が関わるコミュニケーション活動の中で、極めて重要であるため、スピーキング活動の Can-do statements による自

己評価がよく使われることが予想される。さらに、スピーキングスキルは他者とのコミュニケーションを伴うため、人のアイデンティティや自尊心を脅かす恐れがあり、他のスキルと比較して自己評価の正確さが欠けると指摘されている (MacIntyre et al., 1997)。従って、スピーキング・テスト結果との比較によって、スピーキング Can-do statements による自己評価妥当性調査を行う努力をすべきだと思われる。

そこで、以上の Can-do statements の開発経緯及びその妥当性検証に関する問題意識を踏まえて、本研究はまず、GTEC のスピーキング「Can-do」アンケートを実施し、本学学生のスピーキング言語タスクに関する「Can-do」の実態を調査する。さらに、今回実施するスピーキング「Can-do」アンケートの妥当性検証を、スピーキング・テストの結果との関係を通して検討する。

2. 調査の目的

本調査は、具体的に以下の2点を明らかにすることを目的とする。

- ① 英語スピーキング「Can-do」アンケートに即して、東京外国語大学1年生の英語スピーキング自己評価の実態がどうであるか。
- ② 東京外国語大学学生を対象として、英語スピーキング Can-do statements による自己評価とスピーキング・テスト結果との間に、どのような関係があるか。スピーキング能力が高い人ほど、タスクに関する「できる」と自己評価する人の割合も高くなるであろうか。

3. 調査方法

3.1 調査対象

「Can-do」アンケートに答えた東京外国語大学1年生は134名であった。内、英語圏に行ったことのない人は64名(48.1%)、滞在期間が2週間未満の人は26名(19.5%)、2週間以上で1ヶ月未満の人は24名(18%)、1ヶ月以上で半年未満の人は7名(5.3%)、半年以上の人は3名(2.3%)、1年以上で3年未満の人は2名(1.5%)、3年以上で5年未満の人は3名(2.3%)、5年以上の人は4名(3%)であった。スピーキング・テストに受けた学生は、25名であり、学部生と大学院生が混ざっており、学年について正確な情報は不明である。内、英語圏に行ったことのない人は6名(24%)、滞在期間が2週間未満の人は7名(28%)、2週間以上で1ヶ月未満の人は2名(8%)、1ヶ月以上で半年未満の人は2名(8%)、半年以上は4名(16%)、1年以上で3年未満の人は1名(4%)、3年以上で5年未満の人は0名、5年以上の人は3名(12%)であった。

3.2 調査材料

3.2.1 「Can-do」アンケート

本調査に使われる「Can-do」アンケートは、「根岸雅史『英語 can-do アンケート』Japan」に基づいて、2004年度東京外国語大学言語教育学博士後期ゼミの受講者6名が、学習者は英語を使用してどのような活動をするかを、考案し作成したものである。具体的な調査項

目は、「学校・教室内」、「学校外」、「英語圏」に分けて、英語の使用場面や活動について36項目である。「学校・教室内で英語使用場面や活動」については、11項目の質問があり、選択肢は3択になっている（例えば、教科書の内容について先生からの口頭での英語の質問は①されたことがない②あまり答えられない③たいてい答えられる）。「学校外の日常生活で英語を使う場面や活動に関する質問」は、選択肢が3択で、具体的な活動に関する4問と、「英語圏への旅行、滞在経験について」の1問である。例えば、(3分程度の)英語での自己紹介は①したことがない②うまくできない③だいたいできる。滞在経験のある学習者のみ、「日本国外(英語圏)での質問」に進むようになっている。「日本国外(英語圏)で英語を使う場面や活動に関する質問」には、19問があり、内、1問の「英語圏に行っていた主な時期」と残り18問が選択肢の3択また4択の具体的な活動に関する18質問である。例えば、トイレの場所を英語で①たずねたことがない②うまくたずねられなかった③たずねることができた。また、電話でタクシーを英語で①呼んだことがない②呼べなかった③時間と場所だけを言った④相手と適切なやりとりができた。Ross(1998)によれば、自己評価の質問が学習者の経験に関連している場合、より正確な自己評価できるため、このアンケートは、学生が、自分の経験に基づいて、回答するものである(詳細は付録へ参照)。

3.2.2 スピーキング・テスト

本調査では、英語スピーキング能力を測定するために、ベネッセコーポレーションが開発した英語運用能力を測定するためのテスト、「GTEC for Students 英語コミュニケーション能力テスト(以下、GTECS)」のスピーキングの部分を使用した。このテストには、「発音・リズム・イントネーション」、「会話シミュレーション」、「ストーリーテリング問題」と「ショートプレゼンテーション問題」の4つのスピーキング・タスクがあり、6レベルのグレードで、パソコン上で実施する約12分間のスピーキング・テストである。評価観点には語彙、文法、流暢さと発音である。

3.3 調査手順

2005年1月と2月の2回に渡って、東京外国語大学の「言語教育基礎」の授業内に、「Can-do」アンケートを配布し、その場で回収した。スピーキング・テストについては、授業時間でスピーキング・テストを受ける学生を、「言語教育基礎」と「言語教育ゼミ」で募集して、授業時間外に、別の教室で4人ずつ同時に受けてもらった。自己評価アンケートに答えていない学生には、アンケートを配布し、その場で回収した。

3.4 分析方法

まず、「Can-do」アンケートデータの処理について、質問が3択の場合は、1「その活動を経験したことがない」を欠損値、2「ほとんどできない」を「できない」、3「たいていできる」を「できる」の回答とする。質問が4択の場合は、1「経験したことがない」を欠損値、2「うまくできなかった」を「できない」に、3「なんとかできた」と4「よくできた」

を「できる」の回答とする。次に、「Can-do」アンケート項目を「できる」比率の順番で集計する。

「Can-do」アンケートの結果とスピーキング・テストの結果の関係を、グレード別に、質問項目を「できる」と「できない」に分けて集計する。集計結果を折れ線に表し、自己評価結果とスピーキング・テスト結果の間のパターンを検討する。

4. 結果

4.1 自己評価アンケート結果

表1は、学校・教室内と学校外の日常生活で英語を使う場面や活動に関する質問の回答を、「できる」と「できない」に分けて、「できる」の比率の高い順で並べた集計結果を示す。「英語での電話」の以外に、すべての項目において、「できる」と答えた学習者は「できない」と答えた学習者を上回った。「英語での電話」について、「できる」と「できない」と答えた人数がそれぞれ24名と27名で、それほど差がなかったといえよう。多くの項目に「できる」と答えた学習者の比率は全体として高かった。特に「英語で3分ほどのスピーチ」、「英語で3分ほどのプレゼンテーション」、「英語でのスキットでセリフを覚えた」において、90%以上の学習者は「できる」と答えた。

表1：学校・教室内と学校外の日常生活で英語を使う場面や活動に関する自己評価の集計結果

	Can (%)	N	Can't (%)	N
英語で3分ほどのスピーチ	97.9	93	2.1	2
英語で3分ほどのプレゼンテーション	93.3	70	6.7	5
英語のスキット(寸劇)でセリフを覚える	90.2	55	9.8	6
英語でのインタビューで、自分のことに関する質問に答える	87.9	80	12.1	11
英語での(3分程度の)自己紹介*	82.2	83	17.8	18
自分の好きな洋楽アーティスト(歌手、音楽グループ)の英語の歌を歌う*	75.7	87	24.3	28
教科書の内容について先生からの口頭での英語の質問は答える	71.7	81	28.3	32
英語で話している時に、分からないところを聞き返す	69.4	77	30.6	34
英語のロール・プレイ	66.7	46	33.8	23
自分のよく知っている事柄についての英語でディスカッション	66.2	49	33.8	25
授業時間外で、英語のネイティブ・スピーカーの先生と日常的な話題について英語で話す	62.8	54	37.2	32
英語で道を尋ねられて説明する*	58.9	33	41.1	23
ある英語の単語が分からないとき、別の言い方で言い換える	61.7	74	38.3	46
授業中の英語でディベートに参加する	52.8	28	47.2	25
英語での電話*	47.1	24	52.9	27

注：*は学校外の活動を示す。

表2は、日本国外（英語圏）で英語を使う場面や活動に関する質問を、「できる」と「できない」に分けて、「できる」の比率の高い順で並べた集計結果を示す。「電話でタクシーを英語で呼ぶ」以外に、すべての項目において、「できる」と答えた学習者は「できない」と答えた学習者を上回った。「電話でタクシーを英語で呼ぶ」について、「できる」と「できない」と答えた人数がそれぞれ1名と2名で少なかったため、比率の数値で比較するのは適切ではないであろう。多くの項目に「できる」と答えた学習者の比率は全体として高かった。これは、今回調査した英語圏で英語を使う活動が本学1年生にとって、難しくなく、全員が「できる」タスクであると判断できるといえよう。

表2：日本国外（英語圏）で英語を使う場面や活動に関する自己評価の集計結果

	Can (%)	N	Can't (%)	N
トイレの場所を英語で尋ねる	100	41	0	0
待ち合わせの場所や時間について、英語で約束する	100	35	0	0
時間を英語で尋ねる	95.6	43	4.4	2
ファースト・フード店で、英語で注文する	94.8	55	5.2	58
駅の窓口で、英語を使って目的地を伝える	94.4	17	5.6	1
映画やコンサートなどに一緒に行きたい気持ちを友達に、英語で伝える	91.7	22	8.3	2
(ホスト・マザーなどに)自分の食べ物の好みを英語で言う	90.7	49	9.3	5
服などの買い物をするときに、店員と英語で話して探しているものを伝える	90	36	10	4
ホテルで、自分の行きたい場所や知りたい情報について、英語で尋ねる	88.5	23	11.5	3
バスで自分の目的地の最寄のバス停を英語で尋ねる	81.3	13	18.8	3
入国の際、自分の一人で英語で入国審査	80.4	41	19.6	10
図書館で本を、英語を使って借りる	78.6	11	21.4	14
日本文化を、英語で紹介する	77.8	42	22.2	12
医者に自分の病状を、英語で伝える	66.7	4	33.3	2
レストランで、注文したものと違うものがきたときに、英語で対応する	62.5	5	37.5	3
友達に、自分の見た映画や読んだ本のあらすじを、英語で話す	62.5	20	37.5	12
パーティーで、いろいろな人と英語で話す	52.2	24	47.8	22
美容室や理容室で自分の希望を、英語で伝える	50	3	50	3
電話でタクシーを英語で呼ぶ	33.3	1	66.7	2

4.2 「Can-do」アンケート結果とスピーキング・テスト結果の関係

スピーキング・テストを受けた学生の内、グレード4の学生が6名、グレード5が13名、グレード6が6名であったため、今回の参加者はほとんど中級と上級者であることがわかった。

表3は、スピーキング・テストのグレード別に、「Can-do」アンケートにおけるタスク項目の「できる」と「できない」比率を表しているものである。表3の中に、グレード別の比率を検討し得られた5つのパターンも示されている。

表3：グレード別に Can-do タスク項目に「できる」と「できない」集計結果とそのパターン

		G4	G5	G6
バタインⅠ				
Q3 英語のロール・プレイ	Can't (n)	50(2)	27(3)	0(0)
	Can (n)	50(2)	73(8)	100(5)
Q33 日本文化を、英語で紹介する	Can't (n)	50(2)	0	0
	Can (n)	50(2)	100(7)	100(5)
バタインⅡ				
Q18 トイレの場所を英語で尋ねる	Can't (n)	0	0	0
	Can (n)	100(1)	100(5)	100(5)
Q24 駅の窓口で、英語を使って目的地を伝える	Can't (n)	0	0	0
	Can (n)	100(2)	100(5)	100(2)
Q30 待ち合わせの場所や時間について、英語で約束する	Can't (n)	0	0	0
	Can (n)	100(3)	100(6)	100(5)
Q36 医者に自分の病状を、英語で伝える	Can't (n)	0	0	0
	Can (n)	100(1)	100(2)	100(5)
バタインⅢ				
Q2 英語のスキット(寸劇)でセリフを覚える	Can't (n)	0	0	25(1)
	Can (n)	100(4)	100(10)	75(3)
Q5 英語で3分ほどのスピーチ	Can't (n)	0	8(1)	40(2)
	Can (n)	100(5)	92(11)	60(3)
Q6 英語で3分ほどのプレゼンテーション	Can't (n)	0	8(1)	40(2)
	Can (n)	100(5)	92(11)	60(3)
Q7 自分のよく知っている事柄についての英語でディスカッション	Can't (n)	20(1)	20(2)	40(2)
	Can (n)	80(4)	80(8)	60(3)
Q8 授業中の英語でディベートに参加する	Can't (n)	25(1)	25(2)	50(3)
	Can (n)	75(3)	75(6)	50(3)
Q15 自分の好きな洋楽アーティスト(歌手、音楽グループ)の英語の歌を歌う	Can't (n)	17(1)	18(2)	40(2)
	Can (n)	83(5)	82(9)	60(3)
Q19 時間を英語で尋ねる	Can't (n)	0	17(1)	17(1)
	Can (n)	100(3)	100(6)	83(5)
Q20 ファースト・フード店で、英語で注文する	Can't (n)	0	20(1)	20(1)
	Can (n)	100(4)	100(7)	80(4)
Q21 (ホスト・マザーなどに)自分の食べ物の好みを英語で言う	Can't (n)	0	16.7(1)	20(1)
	Can (n)	100(3)	83(5)	80(4)
Q22 入国の際、自分の一人で英語で入国審査	Can't (n)	0	17(1)	20(1)
	Can (n)	100(4)	83(5)	80(4)
Q23 図書館で本を、英語を使って借りる	Can't (n)	0	0	25(1)
	Can (n)	100(1)	100(2)	75(3)
Q27 ホテルで、自分の行きたい場所や知りたい情報について、英語で尋ねる	Can't (n)	0	0	20(1)
	Can (n)	100(4)	100(3)	80(5)
Q28 服などの買い物をするときに、店員と英語で話して探しているものを伝える	Can't (n)	0	0	33(1)
	Can (n)	100(3)	100(5)	67(2)
Q31 映画やコンサートなどに一緒に行きたい気持ちを友達に、英語で伝える	Can't (n)	0	0	17(1)
	Can (n)	100(2)	100(3)	83(5)
Q35 美容室や理容室で自分の希望を、英語で伝える	Can't (n)	0	0	33(1)
	Can (n)	100(1)	100(1)	67(2)
バタインⅣ				
Q12 英語での(3分程度の)自己紹介	Can't (n)	20(1)	17(2)	40(1)
	Can (n)	80(4)	83(10)	60(3)
Q13 英語での電話	Can't (n)	60(3)	17(1)	50(2)
	Can (n)	40(2)	83(5)	50(2)
Q14 英語で道を尋ねられて説明する	Can't (n)	67(2)	0	50(2)
	Can (n)	33(1)	100(8)	50(2)
Q25 バスで自分の目的地の最寄りのバス停を英語で尋ねる	Can't (n)	0	0	0
	Can (n)	0	100(5)	0
Q26 電話でタクシーを英語で呼ぶ	Can't (n)	0	0	100(1)
	Can (n)	0	100(2)	0
Q34 友達に、自分の見た映画や読んだ本のあらすじを、英語で話す	Can't (n)	25(1)	0	40(2)
	Can (n)	75(3)	100(5)	60(3)
バタインⅤ				
Q1 教科書の内容について先生からの口頭での英語の質問に答える	Can't (n)	20(1)	36(4)	0
	Can (n)	80(4)	64(7)	100(3)
Q4 英語でのインタビューで、自分のことに関する質問に答える	Can't (n)	0	10(1)	0
	Can (n)	100(4)	90(9)	100(5)
Q9 授業時間外で、英語のネイティブ・スピーカーの先生と日常的な話題について英語で話す	Can't (n)	20(1)	25(3)	17(1)
	Can (n)	80(4)	75(9)	83(5)
Q10 ある英語の単語が分からないとき、別の言い方で言い換える	Can't (n)	0	23(3)	17(1)
	Can (n)	100(5)	77(10)	83(5)
Q11 英語で話している時に、分からないところを聞き返す	Can't (n)	0	8(1)	0
	Can (n)	100(5)	92(11)	100(5)
Q29 レストランで、注文したものと違うものがきたときに、英語で対応する	Can't (n)	0	0	50(1)
	Can (n)	0	100(1)	50(1)

注：G4、G5とG6はそれぞれGTECSスピーキング・テストのグレード4、5と6を指す。Can'tは「できる」比率を、Can'tは「できない」比率を指す。

ここで、表3の集計結果から得た5つのパターンを折れ線に表し、個々検討していく。まず、Q3「英語のロール・プレイ」のタスクにおいて、GTECSのグレードが高いほど、「できる」と評価する人の比率が高かった(図1に参照)。Q33「日本文化を、英語で紹介する」も同じようなパターンを示している。すなわち、英語スピーキング能力の高い人は

ど、この二つのタスクができると思う比率が高い。

パターンⅡとして、Q18「トイレの場所を英語で尋ねる」のように GTECS のグレードにかかわらず、「できる」と思っている比率が 100%で同じであった（図 2 に参照）。Q24, Q30, Q36 も同じようなパターンを示した。

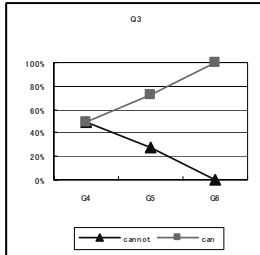


図 1：パターンⅠ（Q3 英語のロール・プレイ）

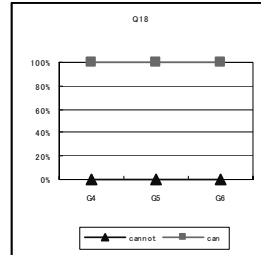


図 2：パターンⅡ（Q18 トイレの場所を英語で尋ねる）

今回の調査で一番多くあったのがパターンⅢを示した 15 つの項目であった。パターンⅢに Q5「英語で 3 分ほどのスピーチ」のように、グレードの高い人ほど、「できない」と思う人の比率が少なくなる（図 3 に参照）。すなわち、英語のスピーキング能力の高い人ほど、これらのタスクができると思わない傾向があると分かった。

パターンⅣは、Q14「英語で道を尋ねられて説明する」のように、グレード 5 の人は、グレード 4 よりできると思う人の比率が高いが、グレード 6 より少なかった（図 4 に参照）。Q12, Q13, Q25, Q26, Q34 も同じようなパターンを示した。

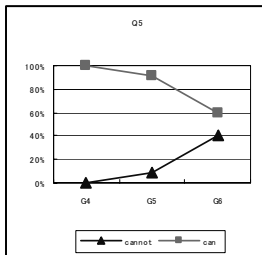


図 3：パターンⅢ（Q5 英語で 3 分ほどのスピーチ）

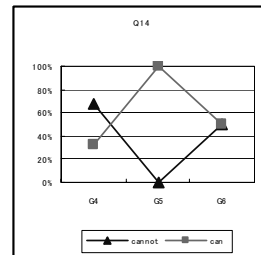


図 4：パターンⅣ（Q14 英語で道を尋ねられて説明する）

パターンⅤとして、Q1「教科書の内容について先生からの口頭での英語の質問に答える」に対して、グレード 5 の人がグレード 6 よりできると思う人が少ないが、グレード 4 よりも少ない（図 5 に参照）。すなわち、グレード 5 の人は、Q1, Q4, Q9, Q10, Q11, Q29 に関して、「できない」と思う人が一番少なかった。

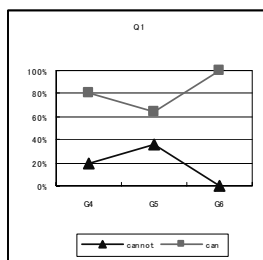


図5：パターンV（Q1 教科書の内容について先生からの口頭での英語の質問に答える）

5. 考察

5.1 「Can-do」アンケートの結果について

「Can-do」アンケートを使って、学校・教室内また学校外で英語を使う活動、および英語圏での英語使用活動に関して調査した結果、ほとんどのタスク項目において、「できる」と答えた人は「できない」と答えた人を上回ったため、ほとんどのタスクが「できる」と判断された。すなわち、本学の1年生にとって、ほとんどのタスクは難しくないようである。

ただし、今回のアンケートは、学生に自分の専攻語について記入してもらわなかったため、専攻語の情報が不明である。英語を専攻語とする学生とそうではない学生の間に、英語でのタスクの経験度とタスク遂行能力が異なると思われるため、分けて集計すれば、また異なる結果になった可能性がある。また、経験値の少ない項目はいくつかあった。「医者に自分の病状を英語で伝える」、「レストランで、注文したものと違うものがきたときに英語で対応する」、「美容室や理容室で自分の希望を英語で伝える」と「電話でタクシーを英語で呼ぶ」に関して、回答した学習者は合わせてそれぞれ10人未満であった。そのため、これらの項目については正しく推測できなかったことも考えられる。更に、このような経験値の低いタスク項目について、今後 Can-do statements の開発においてどのように扱うか、という課題が残されていると思われる。すなわち、学習者の経験有無にかかわらず、自己評価してもらうか、それとも、Can-do statements を開発する際に、このような経験値の低いものを排除するかについて、更なる検討が必要と思われる。

5.2 「Can-do」アンケート結果とスピーキング・テスト結果の関係について

Can-do statements への回答結果とスピーキング・テスト結果に一貫したパターンが見られなかった。スピーキング・テストのグレードと Can-do statements 回答結果の間に、タスク項目によって異なる5つのパターンが得られた。

スピーキング Can-do statements がスピーキング能力を反映していると仮定する場合、スピーキング能力の高い人は、タスク項目の「できる」と思う人の比率が高いと予測される。このようなものは妥当性があるものと考えられる。今回の調査で、パターンIとIIにある項目はこのようなもので、妥当性のある項目となっている。しかし、このような項目は今回の調査においてそれほど多くなかった。多くのタスク項目は、予測に反してパター

ンⅢ, IV, Vのように解釈しにくいものを示した。これは、タスク項目によって、学習者の自己評価がスピーキング能力以外の能力を反映していると考えられる。例えば、パターンⅡの中、Q2「英語のスキットでセリフを覚える」を遂行するために記憶力が必要となり、Q15「自分の好きな洋楽アーティスト（歌手、音楽グループ）の英語の歌を歌う」を「できる」と評価するためには、音楽の才能も関わってくると考えられる。従って、スピーキング・テストの結果との関係の視点から、今回の調査では、スピーキング Can-do statements による自己評価方法の妥当性は実証できなかったといえよう。

今回の一貫していない結果の解釈として、自己評価方法の妥当性が欠けているという点の以外に、タスクコンテンツ、学習者の個人差と調査方法の視点から検討できると考えられる。まず、スピーキング・テスト結果と Can-do statements による自己評価結果との関係のパターンは、各パターンのタスクコンテンツに起因すれば、同じパターンの中のタスクコンテンツに一致した特徴が見られると考えられる。しかし、結果を見る限り、一貫したパターンが見つけられないため、タスクの影響はないといえよう。また、学習者の個人差の中に、タスクの遂行に伴う不安によって、自己評価にバイアスが生じるかもしれない。またタスクの経験回数の増加は学習者の自信にもつながる可能性もある。

最後に、一番結果に影響する要素として、調査方法が考えられる。今回データ処理方法として、アンケート項目の回答を「できる」と「できない」の2値データとし、データ分析を行った。そのため、「できる」と「できない」の間にあるような「大体できる」などの情報を失ってしまった可能性がある。仮に回答を間隔尺度の多値データとして扱えば、分析結果は異なってくるものと考えられる。また、今回スピーキング・テストを受けた学生が少なかったため、データ分析は、アンケート結果とテスト結果の相関ではなく、グレード別に「できる」と「できない」人数の比率を比較した。一方、前述した1年生を対象とした調査にもあったように、いくつかのタスク項目の回答数は非常に少なかった。例えば、「レストランで、注文したものと違うものがきたときに、英語で対応する」と「電話でタクシーを英語で呼ぶ」の回答数はそれぞれ3人しかいなかった。このような比率に基づく集計結果は、正確なものとは言えないであろう。より大きいサンプルを集めれば、より信頼できる結果が得られるといえよう。最後に、今回使った GTECS のスピーキング・テストに含まれるタスクは、相互作用能力よりモノログ能力を要するものであった。一方、「Can-do」アンケートにあるタスク項目は教室また生活場面に相互作用が必要となるものが多かったため、より相互作用能力を測るようなテストを採用すれば、異なる結果が得られる可能性もあるであろう。

6. まとめ

本研究は、「Can-do」アンケートを用いて、東京外国語大学 1 年生のスピーキング「Can-do」実態を調査した。同時に、一部の学生の GTECS スピーキング・テスト結果と「Can-do」アンケート回答の関係を通して、Can-do statements による自己評価方法の妥当性を検討した。結果として、今回 GTEC の「Can-do」アンケートに基づいて作成されたタスク項目は、本学 1 年生にとって難しくなく、ほぼ全部「できる」タスクであると分かった。またいくつかのタスク項目に関して、経験値が非常に低いことも分かった。Can-do statements による自己評価方法の妥当性は、今回のデータで完全に確立できなかった。34 項目のうち、2 つの項目のみではスピーキング能力が高くなるにつれ、「できる」という比率も高くなるというパターンを示した。残りの項目の「できる」比率はスピーキング能力と関係しているというより、他の能力も関係する可能性がある。ゆえに、本研究の参加者は、Can-do statements によって自分の「できる」程度を正確に評価できない可能性が高い。

今後調査課題として、調査対象の構成（特に専攻語など）を詳しく記述してもらって、別々に分析する必要があるであろう。また今回「Can-do」アンケートの調査対象は 1 年生に絞ったが、今後他の学年の学生にアンケート調査を実施し、「Can-do」の実態を調査する必要がある。その際に、今回実施した調査項目をベースとする上で、より難しいタスク項目を考案し、取り入れる必要がある。アンケートの作成に関して、タスク項目の回答選択肢の作り方について更なる検討が望まれる。最後に実施上困難であるが、Can-do statements による自己評価方法の妥当性検証を行う際に、Can-do statements のタスクを遂行させ、つまり実際のパフォーマンスと自己評価の比較が必要であろう。

参考文献

- 和田朋子. (2004). 「TUFUS 言語能力記述モデル開発のための試み：Common European Framework (of Reference for Languages) の考察」. 『言語情報学研究報告』No.5, 東京外国語大学 21 世紀 COE プログラム, pp.89-102.
- Clark, J. L. (1981). Language. In T. S. Barrrows et al. (Eds.). *College students' knowledge and beliefs: A survey of global understanding* (pp. 25-35). New Rochelle, NY: Change Magazine Press.
- Council of Europe. (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Heilenman, L. K. (1990). Self-assessment of second language ability: The role of response effects. *Language Testing*, 7, 174-201.
- Heine, S., Kitayama, S., & Lehman, D. (2001). Cultural differences in self-evaluation. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 32, 434-443.
- Ito, T., Kawaguchi, K., & Ota, R. (2005). *A study of the relationship between TOEIC scores and function job performance: Self-assessment of foreign language proficiency*. Retrieved December 2, 2005, from http://www.toeic.or.jp/toeic/research/pdf/TaeIto_J.pdf
- LeBlanc, R., & Painchaud, G. (1985). Self-assessment as a second language placement instrument. *TESOL Quarterly*, 19, 673-687.
- MacIntyre, P. D., Noels, K. A., & Clement, R. (1997). Biases in self-rating of second language proficiency: The role of language anxiety. *Language Learning*, 47, 265-287.
- Oscarson, M. (1997). Self-assessment of foreign and second language proficiency. In C. Clapham & D. Corson (Eds.). *Encyclopedia of language education*, Vol. 7: Language testing and assessment (pp.175–187). Kluwer Academic Publishers.
- Ross, S. (1998). Self-assessment in second language testing: A meta-analysis of experiential factors. *Language Testing*, 15, 1-20.

付録：「Can-do」アンケート

英語CAN-DO 調査アンケート（回答は別紙の「回答用紙」に記入してください）

根岸雅史「英語can-doアンケート」Japan

以下の質問はすべて自分の経験をもとに答えてください。

学校・教室内で英語を使う場面や活動に関する質問

- 質問1) 教科書の内容について先生からの口頭での英語の質問…
1 されたことがない。 2 あまりこたえられない。 3 たいてい答えられる。
- 質問2) 英語のスキット（寸劇）で…
1 セリフを覚えたことがない。 2 ほとんどセリフを覚えられない。 3 たいていセリフを覚えられる。
- 質問3) 英語のロール・プレイは、…
1 ほとんどしたことがない。 2 あまりうまくできない。 3 たいていうまくできる。
- 質問4) 英語でのインタビューで、自分のことに関する質問に…
1 答えたことがない。 2 ほとんど答えられない。 3 たいてい答えることができる。
- 質問5) 3分ほどのスピーチを英語で…
1 したことがない。 2 ほとんどできない。 3 前もって準備しておけば、できる。
- 質問6) 英語で3分ほどのプレゼンテーションを英語で…
1 したことがない。 2 ほとんどできない。 3 前もって準備しておけば、できる。
- 質問7) 自分のよく知っている事柄についてディスカッションを英語で…
1 したことがない。 2 ほとんどできない。 3 たいていできる。
- 質問8) 授業中の英語でディベートに…
1 参加したことがない。 2 ほとんど参加できない。 3 たいてい参加できる。
- 質問9) 授業時間外で、英語のネイティブ・スピーカーの先生と日常的な話題について英語で…
1 話したことがない。 2 ほとんど話せない。 3 たいてい話せる。
- 質問10) ある英語の単語が分からないとき、別の言い方で…
1 言い換えたことがない。 2 ほとんど言い換えられない。 3 たいてい言い換えられる。
- 質問11) 英語で話している時に、分からないところを…
1 聞き返したことがない。 2 ほとんど聞き返せない。 3 たいてい聞き返せる。

学校外の日常生活で英語を使う場面や活動に関する質問

- 質問12) (3分程度の) 英語での自己紹介は…
1 したことがない。 2 うまくできない。 3 だいたいできる。
- 質問13) 英語での電話は…
1 かけたことがない。 2 うまく話せない。 3 だいたい話せる。
- 質問14) 英語で道を…
1 たずねられたことがない。 2 たずねられても、うまく説明できない。 3 たずねられて、だいたい説明することができる。
- 質問15) 自分の好きな洋楽アーティスト（歌手、音楽グループ）の英語の歌を…
1 歌ったことがない。 2 うまく歌えない。 3 だいたい歌える。
- 質問16) 英語圏への旅行・滞在経験について
1 英語圏に行ったことがない。
2 英語圏に滞在したことがある。期間は2週間未満。
3 英語圏に滞在したことがある。期間は2週間以上で1ヵ月以上で半年未満。
4 英語圏に滞在したことがある。期間は1ヵ月以上で半年未満。
5 英語圏に滞在したことがある。期間は半年以上で1年未満。
6 英語圏に滞在したことがある。期間は1年以上で3年未満。
7 英語圏に滞在したことがある。期間は3年以上で5年未満。
8 英語圏に滞在したことがある。5年以上。

*上の「質問16) 英語圏への旅行・滞在経験について」で「2～8」と回答した方のみ、次のページの質問17)～36)にも回答をお願いします。

日本国外(英語圏)で英語を使う場面や活動に関する質問

- 質問17) 英語圏に行っていた主な時期(複数回答可)
1 小学校入学前 2 小学校 3 中学校 4 高校 5 大学
- 引き続き、以下の質問はすべて自分の英語圏での経験をもとに答えてください。
- 質問18) トイレの場所を英語で…
1 たずねたことがない。 2 うまくたずねられなかった。 3 たずねることができた。

- 質問19) 時間を英語で…
 1 たずねたことがない。 2 うまくたずねられなかった。
 3 身振り手振りを使ってたずねることができた。 4 身振り手振りを使わずにたずねることができた。
- 質問20) ファースト・フード店で、…
 1 注文したことがない。 2 英語を話さずに写真を指で指した。
 3 写真を指しながら英語で注文した。 4 写真を使わずに英語で注文できた。
- 質問21) (ホスト・マザーなどに) 自分の食べ物の好みを英語で…
 1 伝えたことがない。 2 食べ物の名前だけ言った。 3 ～が好きとだけ言った。
 4 食べ物の特徴や好みの傾向、好きな理由を言うことができた。
- 質問22) 入国の際、自分の一人で英語で…
 1 したことがない。 2 うまくできなかった。 3 できた。
- 質問23) 図書館で本を、英語を使って…
 1 借りたことがない。 2 うまく借りられなかった。 3 借りられた。
- 質問24) 駅の窓口で、英語を使って…
 1 切符を買ったことがない。 2 目的地をうまく伝えられなかった。
 3 目的地をうまく伝えられた。
- 質問25) バスで自分の目的地の最寄のバス停を英語で…
 1 たずねたことがない。 2 うまくたずねられなかった。 3 たずねることができた。
- 質問26) 電話でタクシーを英語で…
 1 呼んだことがない。 2 呼べなかった。
 3 時間と場所だけを言った。 4 相手と適切なやりとりができた。
- 質問27) ホテルで、自分の行きたい場所や知りたい情報について、英語で…
 1 たずねたことがない。 2 たずねられなかった。
 3 地図やパンフレットを使ってたずねることができた。
 4 地図やパンフレットを使わずにたずねられた。
- 質問28) 服などの買い物をするときに、店員と英語で話して…
 1 買ったことがない。 2 自分の探しているものを伝えられなかった。
 3 身振り手振りをを使って探しているものを伝えることができた。
 4 探しているものの好みやサイズなどを詳しく伝えられた。
- 質問29) レストランで、注文したものと違うものが…
 1 来たことがない。 2 来たとき、違いを英語で指摘できなかった。
 3 来たとき、違うとだけ英語で言った。
 4 来たとき、自分の注文したものとかえてほしいと英語で言った。
- 質問30) 待ち合わせの場所や時間について、英語で…
 1 約束したことがない。 2 うまく約束ができなかった。
 3 紙に書いたりしながら何とか約束ができた。 4 スムースに約束できた。
- 質問31) 映画やコンサートなどに一緒に行きたい気持ちを友達に、英語で…
 1 伝えたことがない。 2 伝えられなかった。 3 伝えることができた。
- 質問32) パーティーで、いろいろな人と英語で…
 1 話したことがない。 2 簡単なことしか話せなかった。
 3 ジェスチャーを交えながら話せた。 4 自分の思ったとおりに話せた。
- 質問33) 日本文化を、英語で…
 1 紹介したことがない。 2 うまく紹介できなかった。
 3 紹介できたが、質問に答えられなかった。 4 紹介できて、質問にうまく答えられた。
- 質問34) 友達に、自分の見た映画や読んだ本のあらすじを、英語で…
 1 話したことがない。 2 うまく話せなかった。
 3 つかえながらなんとか話せた。 4 うまく話せた。
- 質問35) 美容室や理容室で自分の希望を、英語で…
 1 伝えたことがない。 2 うまく伝えられなかった。
 3 英語を使わずに写真を使って伝えることができた。 4 写真を使わずに伝えられた。
- 質問36) 医者に自分の病状を、英語で…
 1 伝えたことがない。 2 うまく伝えられなかった。
 3 辞書などを使って何とか伝えることができた。 4 うまく伝えられた。